

家庭生活相談に寄せられた 夫婦関係相談の年代別特徴について

P1-10

○成田敦子 黒田みゆき 齋藤芳美 鈴木康子 西川瑞枝
長谷川理絵子 古川敦子 山崎直子 渡辺謠子

公益社団法人北海道家庭生活総合カウンセリングセンター

1. 目的

電話相談に寄せられる夫婦関係相談の中で多くを占める「価値観の相違」に焦点を当て、働くことと心の健康の基盤となる家庭生活とりわけ夫婦関係のあり方を考察する。

2. 方法

平成24～26年夫婦関係相談(H24:634件、H25:686件、H26:716件/年間電話相談の約1割)の中で働く世代である30代から60代の「価値観の相違」1306件の相談を ①夫婦のあり方 ②性格傾向 ③子どもの問題 ④愛情 ⑤金銭 ⑥人間関係 ⑦病気の7項目に分類し検討した。

3. 結果

3-1 夫婦関係相談の価値観の相違について

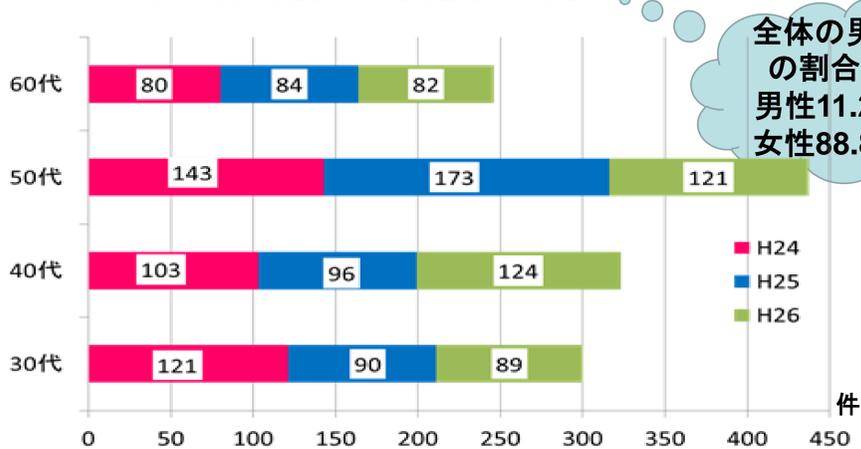


図1 H24～H26年の価値観の相違の件数

全体の男女の割合は
男性11.2%
女性88.8%

3-3 価値観の相違に含まれる家庭問題

表1 離婚・仕事がらみ・DVについて言及のある相談件数

	30代 【300件中】	40代 【323件中】	50代 【437件中】	60代 【246件中】
離婚	81	119	58	23
仕事	41	26	28	34
DV	38	32	34	27

3-2 年代別7項目の比較

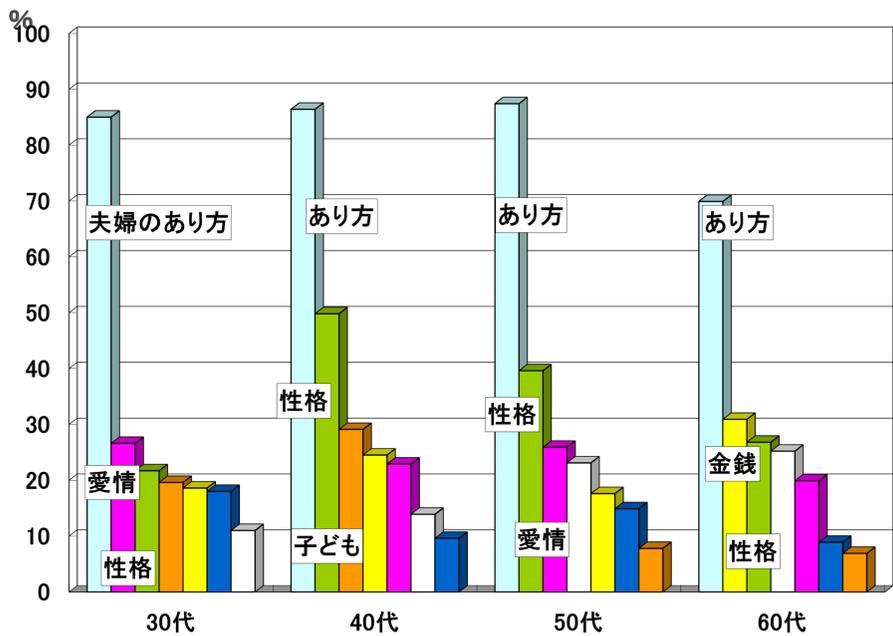


図2 年代別7項目の価値観の相違に対する割合

【7項目の内容】

夫婦のあり方: 会話がない・理解できない・不信感・夫婦はこうあるべき・干渉される・じゃま
性格傾向: 支配的・依存・嫌がらせ・DV・マザコン・変態
性格: 向きあえない・イライラ・ストレス・性格の不一致
子ども: 発達障害・子育て
愛情: 消失・浮気・性愛
人間関係: 親権・無関心・方針・非協力的
人間関係: 親・親族・姻族・近隣など
金銭: 金銭感覚・借金・使い方・生活費・困窮

4. 考察

30代
イライラ

思いのすれ違い
言葉遣い
愛情を疑う
収入などで頼れない
生活感覚で喧嘩になる
家事・育児に非協力
未熟・ゲーム

40代
もやもや

向き合えない
やり過ごす
互いの溝が深まる
子どものこと
姻戚関係のこと
お金のこと
別居の増加

50代

信頼感の低下
愛情について振り返る
お金のこと
体調の変化・心身の病気
姻戚関係
介護

60代
しかたない

生活環境の変化
夫源病
距離感・嫌気
生計の不安
関係の変化
新たな関係の模索

価値観の相違

どの年代も共通⇒「夫婦とはどうあるべきか、またどういふ夫婦になりたいか」に直面する難しさ。
・失業・パワハラなど働く環境の変化(仕事の問題)
・協力がなく頼れない配偶者に無理解を感じ、負担感が増して心のバランスが取れなくなる(心の健康)
・互いの役割期待のずれ・暴言・暴力(関係の硬直)などから、夫婦関係が崩れ、夫婦のあり方に悩み、活路を求める姿が見られた。

5. まとめ

相談者が家庭におけるさまざまな問題を乗り越えて互いを理解し価値観の違いを受け入れていこうとする過程を、当センターのカウンセラーは寄り添い支えることで、働く北海道民のこころの健康に寄与できるよう、さらに研鑽を積んでいきたい。